

夕刊 日九十

警城毎日新聞

創刊日 明治十三年一月一日
社址 警城毎日新聞社
電話 二二七九
代印 警城毎日新聞社
印刷 警城毎日新聞社
発行 警城毎日新聞社



隣組よ精神的に

(上) 宇

新しい生活の様には思はれてゐる隣組は新しいものでなく、古くも無い徳川幕府時代五人組又は十人組と稱し全國民的行はれたと云ふものゝ復活である。これは保甲の再興である。保甲は保甲令の再興である。保甲令の再興は、保甲令の再興である。保甲令の再興は、保甲令の再興である。

保甲令の再興は、保甲令の再興である。保甲令の再興は、保甲令の再興である。保甲令の再興は、保甲令の再興である。保甲令の再興は、保甲令の再興である。



山口ハルエ先生の思い出

和田文夫

(一) 先生の大浦時代を想ふと、その頃丁度現校舎の新築中であつた。それで先生の計略を受けた数日後に先生方今で言ふ勤勞奉仕と云つた形で地固めの地掃きをやつてゐる様子を有るの當時同じく勤勞奉仕の現四倉校に奉職中の某先生を訪ねて伺つて見た。其の某先生は手元にあると云ふので、非常に懐しく思ひながらそれを見せて戴いた。



川柳

(平) 佐藤日出夫

ハルエ先生はと見ると手拭を袖さへ振りかき、耕のハテンで何かんたかを着て、前列の右から二人目に居る。その前列には吉田シゲヨ、山口ハルエ、石井松枝、飯塚オモヨ、松崎トメ、海老根かつの諸先生方が寫つて居る。此の中吉田、飯塚の兩先生ははるかに故人になられ、それに今ハルエ先生が又一人故人の中へ算へ

談話録

異説赤穂浪士
桃川若燕 著
城木番 著

丹後守は怪訝に思つたのは自分は大目付と云ふ大羽織を以て何れは依り左様御承知下りませぬやう……と云ふ。丹後守は立ちかへると、丹後守は立ちかへると、丹後守は立ちかへると……



「イヤ、本日参つたお役筋、手前は當家の用人佐藤重兵衛で罷り越したのではありません、私……」

「おそれ、おそれ……」

フクロクレストロフ
入荷のお知らせ

久敷品切れお取り扱いが此度少配輸入船致しました。

御入用の御方は品切れにならぬ中に成るべく早く御注文下さい。

平驛前 阿部石炭店
電話37番、137番

平病院 (元共済病院跡)
院長 鈴木定蔵
副院長 鈴木定蔵

内科、小兒科、外科、産科、皮膚泌尿科、眼科、耳鼻科、歯科、薬剤師、物理療法科、リハビリテーション科、X線科、検査室、病室、手術室、看護婦、救急科、小児科、産科、皮膚泌尿科、眼科、耳鼻科、歯科、薬剤師、物理療法科、リハビリテーション科、X線科、検査室、病室、手術室、看護婦、救急科。

アマーチ
五十粒入り
二〇〇円
百粒入り
三〇〇円

目録五市平 店約時
局薬邊野山

和久井屋
良品の麻呂酒
品質優良
価格低廉

和久井屋 代理店

トカ
ごんかつ 専門店
平市仲町
電話 四六五番

男女車掌募集
鈴木自動車部
電話二二七番

小野輪船
能率的な自轉車
鏡前鏡後は二人前の動き

紅椿
二皆様本位の
二 喫茶洋酒

和久井屋
御商談に 幸樂
電話201番

クスス・鏡臺
御結婚調度品を取揃へました

久保田醫院
内科、産科、婦人科

北村芳藏
小名濱町

緑屋商店
小名濱町

和久井屋
小名濱町

割烹
小名濱公園内

江尻醫院
泌尿器科

井坂醫院
産科、婦人科

上田外科
外科、内臓、整形

吉田眼科醫院
眼科

安齋醫院
エッセイ光線科

